

3年生の動きから学ぼう……3年生は今、何をしているか

「1年後の自分」

いよいよ9月末、前期が終わるところまでできました。2年生の皆さんにも高校生活の振り返り地点が過ぎ、周囲から「入試」等の声が聞こえ始めています。部活動でも中心学年となって忙しい人も多いと思いますが、模擬試験も秋から5教科受験になりますし、志望校を考えたりと大学入試を意識し始めた人も多いと思います。進路希望を達成するためには、ついに皆さんも「受験生」に変わらなければなりません。まずは、1年後の自分を思い浮かべ、それぞれの取組から逆算して今、何が必要なかを考えましょう。今回は、この時期の3年生は何をしているのかということと、それぞれの取組について紹介してみたいと思います。

「3年生は今！」

就職

企業への就職は9月16日から試験がスタートしました。そして合格をいただければ、**社会人となるための自分磨きの秋**が訪れます。

公務員は職種により違いますが、だいたい9月下旬から試験があります。そして11月中旬から下旬にかけて1次試験を通過した人に対しての2次試験が始まります。

専門学校・短期大学

専門学校は多くの場合、9月から始まる総合型選抜(AO)、10月から始まる学校推薦型選抜での合格を目指します。専門学校は定員のほとんどがこの形式の上、中には埋まり次第入試終了という、先着順のようなパターンの学校もありますので注意が必要です(製菓・調理など)。いずれにしても、専門学校を考えている人は、**職業との直結度が高い**ですから、早い段階から説明会や一日体験入学に参加するなどした上、学校の教育内容や費用、入試制度を調べておく必要があります。

短期大学も専門学校と同じく**学校推薦型選抜や総合型選抜で勝負の色合いが濃く**、総合型選抜(AO)は9月より、学校推薦型選抜は11月より入試が始まります。もちろん一般選抜もありますがかなり多くがこの形式で決まります。したがって、短期大学を考えている人は、学習成績の状況(旧評定平均値)をしっかりと上げておくことが重要です。また入試問題も標準的なところが多く、学校の勉強をいかに大切にしているかが可否の鍵となります。

私立四年制大学

学校推薦型選抜(指定校・公募・特技・スポーツ)、総合型選抜(AO)、さらに一般選抜など多種多様な受験の形態があります。指定校・人数制限がある学校推薦型選抜については、校内選考を終えたところです。そして11月から学校推薦型選抜(公募)が始まり出す時期です。推薦入試の定員数を増やす動きが強まっており、自分にアピールポイントのある人は推薦入試から積極的に受験すればいいと思いますが、短期大学とは違い推薦が主流になることはありません。ですから多くの人が2月から始まる**一般選抜に向かってひたすら力を蓄えているのがこの時期**です。

また、国公立大学に比べて入試科目が少ないのが私立大学の特徴ですが、それは実はラッキーなことではありません。科目数が少ないということは、それだけ1科目の比重が大きいということです。一般選抜ではだいたい3科目が標準ですが、1科目でも苦手科目があれば、他の2科目で挽回することが難しいという面や、科目数が少ない分、多くの受験生が絞った勉強をしてきてボーダーが上がり、ハイレベルになりやすいという面があります。いずれにしろ、しっかりと学習時間を取り、多くの問題を解き知識を蓄え、2月を見据えた受験勉強が大切であり、現役生は秋から一番伸びるんだということもよく知っておいてください。

国公立大学

多くの人が国公立大学に向けて「大学入学共通テスト」を受験します。ただし9月下旬に、自分はどの科目で受けるという申請とともに出願をしなければならず、3年生は221名が出願を予定しています。今年度の共通テストは来年の1月13日、14日です。年が明ければすぐです。そして3年生は秋以降、授業でも共通テストに向けた演習が徐々に入ってきて、いよいよ本番ムードが漂ってきます。**共通テストの問題は、旧センター試験と比べると、思考力を問う問題や生活に密着した題材の問題、あるいは資料や図表を読み解く問題が増えましたが「高校で習う範囲の総復習」という意味合いが強い問題**です。「数学ⅠA・ⅡB」「コミュニケーション英語Ⅰ+Ⅱ+英語表現Ⅰ」というように1・2年生で今やっていることがそのものズバリの出題範囲であり、実際に出題されます。(皆さんが受験するときから、新課程入試になり、共通テストの科目名が変わったり、情報が加わったりしますが、基本的な位置づけは同じです。) **共通テストなんてまだ遠い先と思っている人は、日々の授業が1年後の共通テストにつながっていると理解してください**。また、共通テストの後に大学独自の2次試験が2月の下旬から控えており、合計点で競います。共通テストより2次試験の方が配点比率の高い大学もけっこう多く(特に難関大)ありますので、**記述対策も並行して行わなければならない**と知っておいてください。

また、**指定校推薦の被推薦者要件に「共通テストの指定した教科を受験すること」と明記している大学も出てきており、共通テストの重要性はさらに高まっています**。

それから、募集人数はそう多くはないのですが、国公立大学にも学校推薦型選抜や総合型選抜(AO)があります。多くは共通テストを課し、2次試験前に可否の結果が発表されますが、共通テストを課さずに独自の推薦試験を実施し、年内に結果発表をする大学もあります。またこの場合、推薦試験が学科試験の場合もありますが、面接・小論文、講義レポートの提出やディスカッションなど多様な方式で評価する大学が多いです。その場合10月中旬～11月下旬頃が試験日となります。国公立大学を目指している人は、日々の授業で共通テストに向けての学力をしっかりと蓄えるとともに、全国的な視野で大学や入試に関する研究を進めてください。

そしてこのような学校推薦型選抜や総合型選抜（AO）の割合は今後増えていくので、右に総合型選抜の選抜方法や、学校推薦型・総合型選抜で重視する力についての記事を載せました。今、大学がどのような力を求めているのか、読み取ってみてください。

受験生の定義

ここで「受験生の定義」をみてみましょう。あなたは「受験生」になれていますか？

1. 学習面……予復習や小テスト対策など近い日に結果がでる勉強以外に、長期的にみて自分の弱点補強のために何かに取り組んでいる。

もちろん、受験勉強とは特別なテクニックを注入する作業ではなく、まずは基礎力をつけること、すなわち授業を大切にすることが受験勉強であるから、それがおろそかになっているものはまずそこからやることである。例えば英語だと、一定レベルに達している者は最後は多読をしたいから、過去問や長文読解の問題集をどんどん読み込んでいけばよいが、まだまだ単語力、文法力、構文力に課題のある者は、日々の小テストをきっちり準備して受けるのが受験勉強であり、例えば単語力の不足を感じたら、1年生のときに使った英単語帳を、自分は1日50個のペースで見直すぞ、と決意してやれば、それがまさに受験勉強である。

2. 進路面……自分の進路目標が具体的になり、調べれば調べるほど進路実現したいと思うようになる。

オープンキャンパスにいったあこがれの大学の門をくぐると「よしやるぞ」という気になる。そして受験科目を調べていくと、「〇〇をこの時期に仕上げ、△△はそのあと仕上げよう」など、行きたい大学の受験科目や配点をにらんで学習計画を立てようと思ってくる。だから進路目標が具体的になっていることは受験生として大きな利点である。ただし、まだ決まっていないからといってあせることはない。仮の目標をおいて頑張ればよいし、調べた結果目標が変わってもそれは悪いことではない。

3. 生活面……受験生として何か「我慢」ができるようになる。

まだまだ「テレビやゲームの時間」「スマホをいじる時間」「ごろごろする時間」などが多い者が目立つ。時間は万人に24時間しか与えられていないのだから、学習時間を増やそうと思えば、何かの時間を減らさなければならない。そして先輩たちに聞いても、どの時間を削るかといえば自分の余暇の時間を減らさざるを得ないのが現実だ。優勝を祈願して、優勝してチームメイトと喜びの美酒を飲むために日頃から「酒を絶つ」ことに決めた監督の話などよく聞くがこれと同じことだ。大好きなものを封印して頑張るという決意は、きっといろいろな場でプラスに働くことと思う。

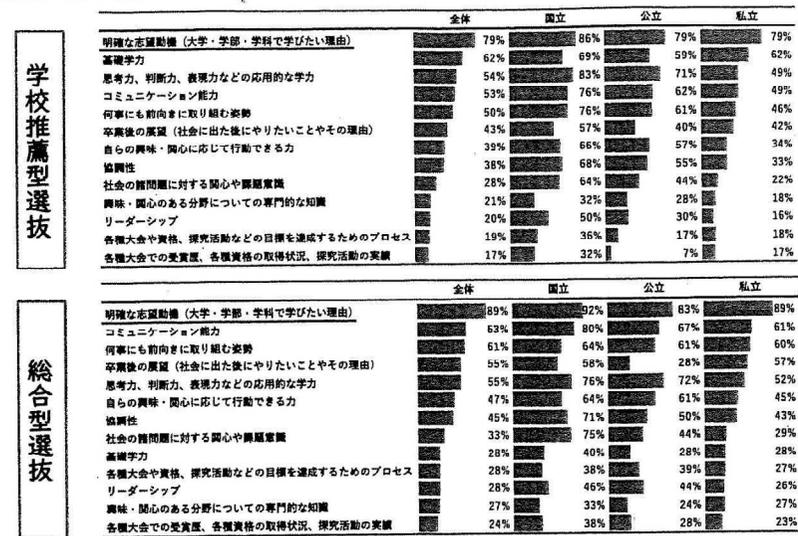
推薦入試で受験生に求められる力

(ベネッセ「大学入試の情報整理」より抜粋)

【学校推薦型選抜・総合型選抜】 学校推薦型選抜・総合型選抜で受験生に求める力



学校推薦型選抜・総合型選抜ともに、受験生に求める力は、「明確な志望動機(大学・学部・学科で学びたい理由)」が最も多い



* 2021年度ベネッセコーポレーション学校推薦型・総合型選抜に関する大学アンケート調査結果より。
* 数値は無回答を除く全回答数に対する「とても重視している」の回答割合。

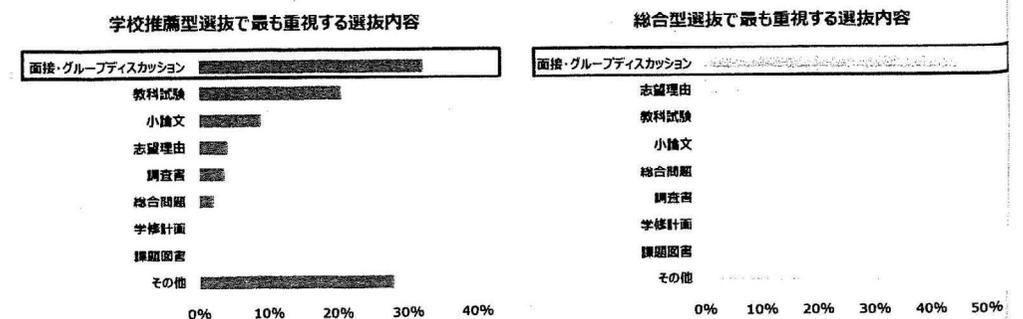
©Benesse Corporation

【学校推薦型選抜・総合型選抜】 学校推薦型選抜・総合型選抜で大学が求めること



学校推薦型・総合型選抜ともに重視する選抜内容は面接・グループディスカッション。志望理由作成だけでなく「自分の言葉で語れること」がカギとなる

大学アンケート調査結果
学校推薦型・総合型選抜で重視する選抜内容



* 2021年度ベネッセコーポレーション学校推薦型・総合型選抜に関する大学アンケート調査結果より